

R2年度 佐賀大学教育学部附属小学校 図画工作科の取組④



題材のつながり～5年生の例～



図画工作科の授業を考える際、教科書の配列や年間指導計画を参考にしながら、取り組まれていることと思います。似たような表現や材料等が続かないように、幅広く考えられていることと思います。そこに、「題材のつながり」を意識すると、子どもたちの資質・能力がより育成されるのでは？と考え、取り組みました。

5年生の図工の教科書（日本文教出版）や教科書会社が作成している指導計画例を参考に、何らかの関連を持たせることを意識してみました。以下、今年度4月から取り組んだ図工の題材です。

題材名	活動の概要	前題材とのつながり
絵の具スケッチ （絵に表す）	・身近にある、よいと感じた場所や物をもとに、小さな紙に表す。	・場所に働きかける意識。
あんなところが こんなところに 見えてきた （造形遊び）	・場所にあるものの形や色などを生かして、楽しく見えるものをつくる。	・「絵の具スケッチ」では、場所の見え方を工夫し、そこから感じるよさを表したので、直接場所に働きかけよう、とした。
心のもよう （絵に表す） （鑑賞）	・思いのままにかいた形や色から、いろいろな気持ちを見つけ、表す。	・「絵の具スケッチ」では、具体的な場所やものをもとに表したので、今回は見えない心を絵（模様）に表そう、とした。
わたしのいい形 （立体に表す）	・材料にふれ、形を変えながら感じたことや思ったことを、立体に表す。	・「心のもよう」では、絵に表したので、今回は立体に表そう、とした。
消してかく （絵に表す）	・コンテでぬりつぶした画面を消しゴムで消しながら、思いついたことを表す。	・「わたしのいい形」では、削ったり彫ったりしながら形に表したので、あるものから取っていく、という方法で絵に表そう、とした。

教科書の配列とあまり変わりません。ポイントは、教師がつながりを意識し、子どもたちにも意識させること。教師は、活動中に前題材と比較するような言葉かけをすることができます。全く違った題材で楽しむことも大事ですが、身に付けた資質・能力を意識し、生かせる題材であれば、子どもたちは自信をもって造形活動に取り組み、資質・能力を培うことができると考えます。

（中野）



「心のもよう」



「わたしのいい形」



「消してかく」